

Title	阪大法学 59巻 総目次
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2009, 59(6)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55340
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

阪大法字 第五九卷 総目次 (一～六号)

論 説

派遣先による派遣労働者の直接雇用

——正すべき誤解——

小寫典明

一

一

一

修定期に至るEUの情報基盤政策(一)

田中規久雄

一

一一

一一

背任罪における任務違背(背任行為)に関する一考察(二)

品田智史

一

一〇一

一〇一

平等保護における動機審査の意義

中曾久雄

一

一五三

一五三

会社分割と事業譲渡規制の類推

——商号続用責任を中心として——

山下真弘

二

一

二二五

破産者死亡の場合における破産財団の範囲

——自由財産と新得財産の処理に関する一考察——

藤本利一
神川朋子

二

二三

二四七

背任罪における任務違背(背任行為)に関する一考察(二・完)

品田智史

二

四一

二六五

号

頁

通頁

「科学的経営管理」運動とナチズム			
—— D I N T A からドイツ労働戦線へ——	小野清美	三・四	五 四六七
社会資本、信頼と民主主義	河田潤一	三・四	六七 五二九
民事司法と民主主義	池田辰夫	三・四	一〇七 五六九
採用の自由とその制約			
—— 求められる慎重な議論——	小寫典明	三・四	一二五 五八七
汎スラヴ主義と露土戦争			
—— 大改革後ロシアの保守的ジャーナリズムにおけるナシヨナリズムの諸相——	竹中 浩	三・四	一五五 六一七
安保条約と吉田外交			
—— 豊下檐彦『安保条約の成立』を読む——	坂元一哉	三・四	一七九 六四一
大阪帝国大学設立の政治過程			
—— 大阪財界と浜口雄幸内閣——	滝口 剛	三・四	二一五 六七七
米国連邦民事訴訟規則におけるEーディスカバリー規定の導入とその現状	藤本利一	三・四	二四一 七〇三
経済政策提言と小泉政権期の経済政策	上川龍之進	三・四	二六七 七二九
戦後アメリカ対中政策の起源			
—— 「二つの中国」政策の形成過程——	高橋慶吉	三・四	三〇一 七六三

修正期に至るEUの情報基盤政策(二・完)	田中規久雄	五	一	七九七
二〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成(一)				
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか	上川龍之進	五	六七	八六三
民主主義のもとでの司法審査				
——権限アプローチの構築に向けて	中曾久雄	五	九三	八八九
企業の弁護士役割観は変わりつつあるのか				
——弁護士業務に関する三つのアンケート調査から	福井康太 福井祐介	六	一	一〇三五
二〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成(二・完)				
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか	上川龍之進	六	四九	一〇八三
商標の機能としての安全性保証機能(二)				
——知的財産法と消費者法の交錯の一場面	勝久晴夫	六	八三	一一一七
「公法」におけるコントロール概念(一)				
——ドイツにおけるコントロール概念の展開	柴田堯史	六	一〇五	一一三九
長期的効果を有する兵器の使用と均衡性の原則				
——「予測される(expected)」の解釈を中心に	仲宗根 卓	六	一二七	一一六一

特別寄稿

オバマ政権の核軍縮・核不拡散政策……………黒澤 満 二 九五 三一九

判例研究

未決拘禁者が購読し得る新聞紙種の制限が違法とされた事例……………横内 恵 五 一二三 九一九

翻訳

国家と私人による公共の福祉の具体化……………ヤン・ツイーコウ
高橋明男／訳 一 一八三 一八三

ドイツにおける基本権ドグマ・マティーク

……………ファイリップ・クローニツヒ
松本和彦・高田倫子／共訳 二 一一九 三四三

ヨーロッパ法がフランス刑事法規範に与える影響

……………カロリン・デュパルク
幡野弘樹・足立公志朗／共訳 二 一三九 三六三

刑法における比較法研究の意義……………ミケール・パーバ
松田岳士／訳 五 一四三 九三九

資料

法律家の新しい社会的役割

——日・韓・中の比較と連携可能性——

三成賢次
洪光植
張京傑
大孫漢夫

二
一五五
三七九

中国法から見た日本法の透明化

——特定領域研究「日本法の透明化」国際民事

訴訟法班・国際金融法班 合同シンポジウム——

松川正毅
韓大元
楊東

五
一六五
九六一

国際裁判管轄法制に関する中間試案に対する意見

「日本法の透明化」プロジェクト・国際民事訴訟法班

五
一一三
一〇〇九

その他

巻頭の辞

中尾敏充

三・四
一
四六三

尹景徹教授略歴・主要著作目録

三・四
三三二
七九三